

令和6年度入学式

2024.4.3

式辞

桜花のもと、山梨県立大学は国際政策学部 81 名、人間福祉学部 86 名、看護学部 102 名、三年次編入生 5 名、大学院人間福祉学研究科 6 名、看護学研究科 8 名、総勢 288 名、の皆さんをお迎えすることができました。

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。長く続いたコロナ禍により、学習過程には様々な困難があったのではないかと思います。目標を見失うことなく難関を突破してここにいらっしゃる皆さんの真摯な努力に敬意を表するとともに、皆さんを励まし見守ってこられたご家族や関係者の方々に、心よりお慶びを申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、これまでの本学へのご理解とご支援に対して深く敬意を表するところであります。本日は公務ご多忙にもかかわらず、ご来駕を賜りました山梨県知事代理 長田公（おさだ こう）副知事をはじめ、ご臨席の皆様には厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、入学式は制限下での実施を余儀なくされておりましたが、今年度は、コロナ禍前の状況に戻して開催することが出来ました。入学式は、皆さんの人生の大切な節目であると同時に、ご家族、また大学にとっても重要な式典であります。このように一堂に会して入学式が挙行できますことは感無量であります。

さて、本学は「グローバルな知の拠点となる大学」「未来の実践的担い手を育てる大学」「地域に開かれ地域と向き合う大学」として、大学の自治および学問の自由を尊び、独立自尊の精神のもと、地域社会から世界にまで貢献する大学を目指しております。

雄大な自然に囲まれ、悠久の歴史・文化に育まれた山梨県全体を学びのキャンパスとして、豊かな人間性と自ら学び未来を切り開く力を育み、地域における実践的な活動を通じて、社会の発展に寄与することができていると自負しております。

文部科学省の補助事業である「地（知）の拠点整備事業（COC）」「地（知）

の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R）」、さらに令和4年度には「地域活性化人材育成事業（SPARC）」を連続して獲得し、常に時代の変化に応じて個性豊かで魅力ある大学づくりを追及しながら前進しております。

COC+R事業に採択され、本学で行っている「PENTAS YAMANASHI」は、「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」の事業通称名です。「次代を担うアントレプレナー養成プログラム」「観光高度化人材育成プログラム」などを含む5つの実践的な教育プログラムを展開しております。大学生と社会人が共に学び、一部の科目は高校生も履修できるようになっていますので、講義に参加していただいた方もいるのではないかと思います。

本年度からPENTASの主要科目は卒業単位として認定される「教養教育科目」に位置付けられ、3学部の学生は誰でも自由に履修することが可能となりました。新入生の皆さんには積極的に履修して学びを深めていただくことを期待しています。

また、本学は山梨大学と共同で、令和元年に「一般社団法人 大学アライアンスやまなし」を設立し、令和3年には、全国で初めて文部科学大臣より“大学等連携推進法人”の認定を受けました。「アライアンスやまなし」では、大学の枠組みを越えた連携を行っていますが、その一環として「連携開設科目」があります。この科目に指定されていれば両大学の学生が履修でき、単位認定されればそれを卒業単位に含めることができるという制度です。今年度は今までで最も多い187科目が「連携開設科目」になっています。

激動する現代社会から重要な課題を的確に抽出し、解決していくためには、教養教育で文理にまたがる広い知識と深い教養を身に付け、複眼的にものをみて考える力を養っていくことが必要です。様々な分野に興味を持って、広く知見を深めることができるチャンスだと思います。

またSPARC事業の一環として、今年度から国際政策学部に「創発デザインコース」、人間福祉学部と看護学部に跨るコースとして「ヒューマンサービスイノベーションコース」を新設しました。いずれのコースも、文系・理系の枠を超え、専門分野の枠を超えて、地域未来の実践的な担い手を育てることを目指しています。

このように本学では、皆さんが学びたいことを自身で設計して学べる教育システムをたくさん用意しています。学生時代にしかない「学びの機会」を存分に活用して、自分自身で学びの道を切り拓いていってください。

高度な知識や実践力を持つ専門人材の育成も重要です。今年度は新たに大学院に人間福祉学研究科を新設いたしました。子ども虐待に関する知識の修得を柱とした全国初の専門課程です。深刻化する虐待の防止や早期対応につなげることが狙いで、虐待対応のスペシャリスト、保育現場での虐待早期発見、子どものケアのスペシャリストとして、虐待事案に先導して対処できる人材を養成していきます。

修士課程と博士課程を擁する看護学研究科も同様ですが、本学の大学院入学生には学部卒業生に加え、社会人の皆さんが多くおられます。職場や地域のリーダーとして、大きな期待と責任を背負い、職業を持ちながら学ぶ過程は、困難も多いと思います。しかし、大学院での学びや仲間との出会いは、皆さんの未来に繋がる大切な基盤となるはずです。大学は、人生 100 年時代を生涯にわたって学び続ける皆さんを支え、「学び直し」、「リスキリング」の機会を提供します。その最初の一步が始まったのです。困難に直面した時でも、諦めることなく前進し、共に学ぶ友と支え合いながら、乗り越えていく強さを持ってください。

最後になりますが、大学での学びは、多様な分野に興味を持ち、課題を見つけ、問いを立て、調べ、考えて、仲間や教員と議論を交わしながら答えを探究していくことにあります。その過程を繰り返す中にこそ、未来社会へつながる新たな価値が生み出されるのだと思います。

本学の教職員は、皆さんを全力でサポートいたします。かけがえのない皆さんとの新しい出会いに感謝の気持ちを込めて、私からのお祝いと歓迎の言葉いたします。

令和 6 年 4 月 3 日
山梨県立大学 理事長・学長 早川 正幸